

平成 30 年 9 月 11 日
101 会議室

平成 30 年第 17 回 立川市教育委員会定例会

立川市教育委員会

平成30年第17回立川市教育委員会定例会

1 日 時 平成30年9月11日(火)

開会 午後 1時30分

閉会 午後 2時45分

2 場 所 101会議室

3 出席者

教育長 小 町 邦 彦

教育委員 松 野 登 田 中 健 一

伊 藤 憲 春 佐 伯 雅 斗

署名委員 松 野 登

4 説明のため出席した者の職氏名

教育部長 栗原 寛

教育総務課長 庄司 康洋

学務課長 浅見 孝男

指導課長 小瀬 和彦

統括指導主事 森保 亮

教育支援課長 矢ノ口美穂

統轄指導主事 川崎 淳子

学校給食課長 南 彰彦

生涯学習推進センター長 五十嵐 誠

図書館長 池田 朋之

指導主事 加藤 寛之

5 会議に出席した事務局の職員

教育総務課庶務係 西上 大助 井田 容子

案 件

1 報告

- (1) 「立川市通学路安全プログラム」について
- (2) 平成30年度年「立川市・大町市姉妹都市中学生サミット」について
- (3) 特別支援学級在籍児童の登下校や療育等に関するアンケートの実施について
- (4) 図書館利用者アンケートの結果及び読書アンケートの結果について

2 その他

平成30年第17回立川市教育委員会定例会議事日程

平成30年9月11日

101 会議室

1 協議

- (1) 「立川市通学路安全プログラム」について
- (2) 平成30年度「立川市・大町市姉妹都市中学生サミット」について
- (3) 特別支援学級在籍児童の登下校や療育等に関するアンケートの実施について
- (4) 図書館利用者アンケートの結果及び読書アンケートの結果について

2 その他

◎開会の辞

○小町教育長 ただいまから、平成30年第17回立川市教育委員会定例会を開催いたします。

署名委員に松野委員、お願いいたします。

○松野委員 はい。承知いたしました。

○小町教育長 次に議事内容の確認を行います。本日は、報告4件でございます。その他は、議事進行過程で確認をいたします。

次に、出席者の確認を行います。栗原教育部長、お願いいたします。

○栗原教育部長 本日の第17回立川市教育委員会定例会への出席管理職でございますが、教育部長、教育総務課長、学務課長、指導課長、川崎統括指導主事、森保統括指導主事、教育支援課長、学校給食課長、生涯学習推進センター長、図書館長でございます。

◎報 告

(1)「立川市通学路安全プログラム」について

○小町教育長 それでは、1報告(1)「立川市通学路安全プログラム」について、を議題といたします。

浅見学務課長、説明をお願いいたします。

○浅見学務課長 報告事項「立川市通学路安全プログラム」について、ご説明いたします。

近年、全国で児童生徒の登下校中に事故、事件等が多発しております。児童生徒の登下校の安全対策は重要施策として本市でも立川警察署等関係機関、学校や保護者、庁内関係部署と協議をしてまいりました。このたび、児童生徒の登下校の安全対策を全市的に推進するための方針を規定するために、本年7月26日に、立川警察署、学校長、PTA会長、庁内関係課職員が構成メンバーである立川市通学路安全推進会議を開催し、立川市通学路安全プログラムの策定について協議をいたしました。

それでは、資料としてご用意させていただきました立川市通学路安全プログラムをご覧ください。

このプログラムを策定にあたっての基本的な考え方は、1ページの、3. 通学路等の交通安全確保に関する取組方針、に示しました。基本的な考え方は2つございます。1点目は、平成25年以降の国の方針を踏まえ、交通安全の観点だけではなく、防犯の観点からも通学路の安全確保について取組を推進していく方針を示したこと。2点目として、4ページ下段の、5. 学校と保護者、地域の連携、に示しましたとおり、合同点検のあり方について地域との連携を明確に示したことでございます。

具体的な取組方針は3点ございます。1点目は、通学路の合同点検について、立川警察署交通課と協議をして3年で全校を点検できるように、1ページの3. 通学路等の交通安全確保に関する取組方針、にお示ししたとおり、校区を定めたこと。2点目は、3ページの表のとおり、

り、合同点検のチェックリストを作成したこと。3 点目は、チェックリストには交通安全の観点のほかに防犯の観点と倒壊の恐れのあるブロック塀等と、通学路沿いの施設もチェック対象としたこととございます。

今後は通学路安全プログラムに基づき計画的に合同点検を実施し、安全対策を庁内外の関係機関、部署、及び地域や学校と連携して実施してまいります。

なお、本年度につきましては、国からの通知により全国の自治体で緊急合同点検を 9 月末までに実施するよう指示を受け、本市では 8 月 29 日から開始しているところでございます。よって、通学路安全プログラムに基づいた合同点検は、平成 31 年度から 3 年間かけて全校を周期的に実施してまいる予定でございます。

報告は以上でございます。

○小町教育長 報告ありがとうございました。

これより質疑に移ります。報告内容を踏まえ、ご質疑をお願いいたします。

はい、松野委員。

○松野委員 今までの事件とか事故の事例を踏まえて、この視点で通学路の安全点検を行うということ、とても私、大事なことで、重要なことと思っております。そういう点ではこういう計画の実施、ありがとうございます。

さて、先ほど目的の 2 点目に、地域と連携しながら、こういった点検結果あるいはまとまったもの、あるいは点検についてもそうですが、より多くの学校を取り巻く地域と連携して進めることも大事だと思います。例えば P T A はもちろんですが、青少健はじめ学校の支援団体もあります。そしてまた放課後子ども教室はじめそういった学校を介助にしながら活動している部署もあります。そういったところ全部、点検の内容あるいは状況、それらが共有できるような啓発活動といえますか、行っていただきたいということが要望でございます。

○小町教育長 浅見学務課長。

○浅見学務課長 いただきましたご要望をもとに、点検しっぱなしということがないように、しっかりと情報を連携してまいります。

○小町教育長 田中委員。

○田中委員 私から、御礼と提言を申し上げたいと思います。

まず御礼ですが、今回、立川市通学路安全プログラム策定に当って、教育委員会ははじめ立川市小学校 P T A 連合会含めて、7 つの関係機関の方々によって通学路安全会議での真剣な討議の結果、本日このような形でプログラムを頂戴いたしました。改めて「安全なくして教育なし」と受け止めております。今後、本通学路安全プログラムをもとに立川市としては、通学路上で一人の子どもも決して痛ましい事故を起こさせない、また、起こさせないための安全確保をよろしくお願い申し上げます。

次に提言でございます。3 ページをご覧ください。通学路合同点検チェックリストの中で、「見守る目の状況」、「環境設備の状況」、「交通安全の確保」といずれもそれぞれ大事なわけですが、「見守る目の状況」中で見守り活動があります。私としてはこの中で提言申し上げた

いのは、これと併せて、立川警察署による赤パトロールと立川市生活安全課の青パトロール、これを日常的に実施していただいて、安全の呼びかけをしてはどうかという提言でございます。このことについてどうお考えですかということですが、いかがでしょうか。

○小町教育長 浅見学務課長。

○浅見学務課長 先ほど松野委員からもご指摘がありましたとおり、この点検をした後が大切だと思っております。指摘されたところで、例えばここは人の目が届かない場所があるとか、そういうところは、この立川市の通学路安全推進会議には立川警察署のメンバーも入っていただいています。また、ご指摘があったとおり、青パトロールの生活安全課につきましてもメンバーに入っております、事後のきちんとした対策が必要だと思っておりますので、パトロール等の巡警もしていただく等、会議の中でもきちんと伝えていきたいと思っております。

○小町教育長 田中委員。

○田中委員 どうぞよろしくお願いいたします。あわせて立川市の小学校については、平成27年度から各校5台の防犯カメラが設置されているわけですね。その運用等含めて、新たな課題がありましたら報告をお願いいたします。

○小町教育長 ほか、ございますか。伊藤委員。

○伊藤委員 本当に時代によって我々がチェックしなければいけない場所が変わってきているということはとても気になるところでございます。いろいろな状況によって同じ場所でも、ここにもありますが、人・車の通行が途切れる時間とかそういうことによってずいぶん変わってくると思いますので、できるだけ情報を集めていただきながら、また専門家の意見、専門家と言っても不審者の専門家というのは難しいですけども、でも、そういう目で見ながら、ということもある程度必要かなと思いますので、よろしくお願いいたしますと思います。

○小町教育長 ほか、ございますか。佐伯委員。

○佐伯委員 こういったものができるのは大変ありがたく大切なことだと思います。ありがとうございます。ただ、私が街を普通に歩いていて最も危険だなと感じるのは、期間限定的な工事ですか、家屋の修繕とかビルの修繕とか道路工事、そういった期間限定で行われるものの中に一番危険なものがあるなというのは気になっているんですね。

警察との連携をしていただくのであれば、通学路内でそういった工事等が発生するときには、必ずこちらにご連絡いただくというのも一つ大事ななことかと思うのですが、施工業者にそこが登下校に使われる場所であるということ、何時ぐらいに子どもたちが通るんだということをしつかりと認識していただいて、それに合わせた工事の内容というのを組んでいただくのが最も大事なことはないかと思います。

特に大きなトラック等が道路に停まっていたりしますと、それだけでいろいろな死角を含めて、物の落下含めてですが様々なものがあると思いますので、是非、施工するものにもその場所が一体どこなのかというのをしっかりと警察のほうから許可を出すときにご説明いただくようなシステムをつくっていただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

○小町教育長 警察のほうには通学路の情報はいつているんですか、浅見学務課長。

○浅見学務課長 大きな工事の場合はいつております。例えば今、北口の前に広場だった国有地でも大規模な工事をしておりますが、そういうときには関係課が要望事項として記載させていただきまして、あそこも今、北側の歩道が五小の通学路になっておりますので、交通安全の対策には十分配慮してもらおう要望を伝え、きちんとやっけていただいているところだす。今後もご指摘を踏まえて子どもたちの安全確保に努めてまいります。

○小町教育長 ほか、ございますか。

〔「ありません」との声あり〕

○小町教育長 ないようでございます。これで報告(1)「立川市通学路安全プログラム」について、の報告及び質疑を終了いたします。

◎報 告

(2) 平成30年度「立川市・大町市姉妹都市中学生サミット」について

○小町教育長 続きまして、報告(2)平成30年度「立川市・大町市姉妹都市中学生サミット」について、を議題といたします。

小瀬指導課長。

○小瀬指導課長 それでは、担当指導主事であります加藤指導主事から、ご報告をさせていただきます。

○加藤指導主事 これから、平成30年度第4回立川市・大町市姉妹都市中学生サミットについて、ご報告いたします。

7月14・15日に行われましたこのサミットですけれども、立川市と大町市をお互いに訪問し合い、今年で4回目を迎えました。今年は大町市内の代表生徒18名が立川市を訪れ、立川市の代表生徒18名と交流を深めました。

6月と7月に3回の事前学習を行いました。大町市の生徒を笑顔で迎え入れるために、まずは立川市の生徒がコミュニケーションを深めることが大切です。自己紹介やゲームを通して少しずつ仲良くなることができました。また、今回のサミットのテーマが、「東京2020オリンピック・パラリンピック大会に向けて立川のよさを英語でPRしよう」ということで、グループごとに見学場所を決め、英語で発表する内容や発表の仕方をALTの先生の力も借りながら話し合い、本番を迎えました。

7月14日、待ちに待った中学生サミット当日です。大町市の中学生を迎え入れる前に、小町教育長から4つのキーワードで激励の言葉をいただきました。

そして大町市の生徒を乗せたバスが、今回のサミットの宿舎となる立川競輪場に到着しました。

こちらは対面式の様子です。立川市の代表として五中の荒川さんによる歓迎の挨拶です。今回のサミットのテーマや目的を共通理解し、みんなの意欲が高まりました。対面式では立川市の清水市長からも、この時期に身に付けたことは一生の宝物になりますというお言葉を

いただきました。大町市の代表挨拶では、松原さんが冒頭、オールイングリッシュで挨拶をしてくれました。すばらしい発音で、サミットへの期待や大町の魅力を伝えてくれました。

対面式の後には、全員、水色のオリジナルTシャツに着替え、昼食のカレーを食べながら活動班ごとに自己紹介し合いました。ALTの先生の質問に英語で答えるのが大変でカレーがなかなか進みませんでした。

食事の後は6つのグループに分かれ、市街地巡りのスタートです。

1 班は、ルミネ、グランデュオ等の商業施設、諏訪神社を見学しました。

2 班は、ファーレ立川と南極・北極科学館を見学しました。防寒服を着てペンギンをバックに南極観測隊の気分を味わうことができます。

3 班は、IKEAとららぽーとを見学しました。どちらも魅力的なものが多く売られ、買物好きな女子が終始リード、男子がついていくという姿が見られました。こちらはモノレールでららぽーとに移動するときの様子です。大町の生徒はモノレール初体験でした。下から上を見た大町の生徒が「モノレール、こわい」と言っていたのが印象的でした。

4 班は、ブルーベリー農園と昭和記念公園を見学しました。暑い中でしたが、たくさんのブルーベリーが採れて喜んでいました。

5 班は、防災館と昭和記念公園みどりの文化ゾーンを見学しました。防災館では様々な体験を通して防災について学ぶことができました。後ろの方に映っているのは男子ですが、中学生でも男子は消防服を着て喜んでる姿がほほえましい1枚です。

6 班は、普済寺、山中坂、たまがわ・みらいパークを見学しました。山中坂では立川の生徒が事前学習で学んだことを大町の生徒に説明する姿が見られました。

グループ活動から戻ってきってからプレゼンのまとめ方の確認をしました。事務局でレイアウトを用意していたのですが、生徒たちは自分たちでどんどんプレゼンを作成していきしました。最近の中学生のパソコン能力の高さを感じました。

この後、生徒たちは銭湯で入浴、2年前同様、梅の湯さんにお世話になりました。生徒たちは本当に気持ち良かった表情で、暑い中歩いた疲れも、とれたようでした。佐伯委員、本当にありがとうございました。もしよろしければ、2年後もどうぞよろしくお願いします。

夕食は楽しみにしていたバイキングです。グループ活動でコミュニケーションを図り、親睦を深めたことでかなり仲良くなりました。お互いの学校生活の様子等を話しながら会話が弾みます。

夕食後はグループごとにパソコンを使って発表の準備です。撮ってきた写真をプレゼンに取り込みながら、事前学習で作成した発表原稿案をもとに、英語で発表する内容を考えていきます。発表原稿、プレゼンが完成したら実際に発表の練習です。身振り手振りやジェスチャーを入れたり、大町の生徒の質問に立川の生徒が答えたり等、発表の仕方を工夫する姿が見られました。

1 日の終わりの反省会の様子です。活動班ごとに成果と課題を発表しました。時には笑いあったり拍手したりする場面も見られ、関係が深まってきたことが分かりました。

7月15日、2日目の朝です。競輪場のバンクで気持ちよくラジオ体操を行いました。

ラジオ体操で体をほぐした後は、班ごとに楽しく会話をしながら食事をしました。

朝食後は、発表前の最終確認です。原稿を見ながら英語を話す姿は真剣そのものです。

バスで市役所に移動して、ALTの先生と発表の最終リハーサルです。英語の表現の仕方についてアドバイスをもらいました。

いよいよ発表会の始まりです。みんな緊張しています。

1班は、大町の中学生在が旅行者になり、困っているところに立川の中学生在がかけつけて案内するという設定で発表しました。ルミネ、グランデュオといった商業施設の魅力や諏訪神社の歴史について紹介していました。

2班は、ファーレ立川の中から3つの展示物の作者、大きさ、特徴などについて発表しました。また、南極・北極科学館についても3つの展示物についての紹介をしました。

3班は、IKEAとららぽーとについて大町の中学生在が質問をして、立川の中学生在が答えるという形で発表しました。途中、お客さんにクイズを出すなど会場を盛り上げていました。

4班は、外国人役の大町の中学生在に立川の中学生在が、ブルーベリー農園、昭和記念公園について説明をしました。それぞれの場所でどんなことが楽しめるのか魅力を伝えました。

5班は、大町の中学生在の質問に立川の中学生在が答え、大町の中学生在が感想を言ってもらいながら進めていました。防災館では体験を通して地震等について学ぶことができること、昭和記念公園では花火大会等イベントがたくさんあり、たくさんの人が訪れることを発表していました。

6班は、立川の中学生在と大町の中学生在で会話形式で発表していました。普済寺、山中坂の歴史やたまがわ・みらいパークの魅力を身振り、手振りを使って堂々と発表していました。

指導・講評では、小瀬指導課長から生徒たちに向け、この2日間の頑張りについて褒めるとともに、暮らしている地域、宗教、文化、言葉、信念、性別、年齢は異なっても、交流を通して感性を磨き、創造力、合意形成力、共同的な問題解決力を高めていくことが大切であることを指導しました。ALTの先生方からもオールイングリッシュのお褒めの言葉をいただきました。

昼食後は、ららぽーとで最後の交流の時間です。グループごとにお店を見て回ったり、おみやげを買ったりしながら最後の交流を楽しみました。

そして市役所に戻って解散式です。大町代表の岡本さんは、この2日間で交流を深めながら自分が成長できたことを英語と日本語で語りました。小町教育長からは、難しい課題だったと思うが、想像以上にすばらしい発表だったと最大限のお褒めの言葉をいただきました。最後に、大町の実行委員長、高野校長先生からも、充実したサミットであったこと、これからさらに交流を深めていこうというお言葉をいただきました。

お別れの際には、立川市の中学生在がアーチをつくり、その中を大町の中学生在がくぐりながらバスに乗り込みました。笑顔で言葉を交わしている姿が印象的でした。大町の中学生在が乗ったバスに立川の中学生在が手を振ります。お互いに手を振り合って名残惜しそうでした。

この2日間のサミットで中学生たちは大変貴重な経験ができ、また大きく成長することができました。立川市と大町市の交流発展のため、このサミットはこれからも続きます。来年度は立川市の生徒が大町市を訪れます。また新たな交流が生まれることを期待しています。

これで第4回立川市・大町市姉妹都市中学生サミットの報告を終わります。

○小町教育長 報告ありがとうございます。

これより質疑に移ります。報告内容を踏まえ、ご質疑をお願いいたします。

はい、田中委員。

○田中委員 今、映像を通し、平成27年からちょうど足かけこれで4年になるわけですが、年々取組が非常に素晴らし成果を上げていることに、改めて小町教育長はじめ関係の方々に心から御礼を申し上げます。先ほど加藤指導主事からもございましたように、今後とも、なお一層の継続と充実を期して取り組んでいただくことを心から期待申し上げます。

○小町教育長 ほか、ございますか。松野委員。

○松野委員 すばらしい交流でしたね。ありがとうございました。しかし、こういうふうな交流が続くのはとても私、これをバネにしてもっと広げる、深める、何かできそうな気がいたしますね。ですから中期、長期の構想をもう少し練って、もしあるならご紹介いただけると大変ありがたいなと思いますが、いかがでしょうか。

○小町教育長 では私のほうから。私も参加させていただきまして、今回、特に英語ということで取り組んで、当初、私どもの指導主事から、なかなか難しいのではないかというお話をされていたくらいで、また、大町の荒井教育長ともご相談して、英語は難しいのではないかということで、当初、かなりハードルとしては高いのではないかという事務局の見解で、ただ私は、子どもたちの可能性もございますし、2020年を見越すと、英語でプレゼンするというのはとても大事な機会になるのではないかということで、そのための準備を整えた上でチャレンジしようよということで、ALTを全グループにつけるということで、そういったこちら側の準備をした上で子どもたちにチャレンジしてもらいました。

子どもたちは、まさに私が思っていた想像以上にしっかりと地域の取材をして、それを英語でどう表現するかというところまで全部自分たちで創意工夫して、それも発表は棒読みではなくて、劇形式であったりとかクイズを入れたりとか、まさにプレゼンテーションはパフォーマンスとしてどうお客さんを取り込むか、聴いてもらえるかというところ、理解してもらうには楽しく理解してもらうというところまで含めたプレゼンができていました。子どもたちの能力の高さを改めて感じて、先日の9月の校長会で、我々は少しハードルを低く設定していないかということを申し上げて、これから2学期はいろいろな行事が多いので、体育祭、運動会、合唱祭含めて様々、子どもたちのチャレンジということを意識して取り組んでほしいというお話を、夏のサミットの体験で私が学んだことを、逆にいうと2学期に活かしてほしいということで、子どもたちの可能性の大きさというのを改めて子どもたちから教わった気がいたします。

今後の展開ということでございます。これを交流できた子どもたちだけにとどめていくと

いうことではなくて、もちろん前回はサミットをやった内容はそれぞれの中学校で還元したり、教育フォーラムで取り上げたりしましたけれども、今回はビデオを撮っていますので、英語で生で流せなくて残念ですけど、本当に子どもたち、発音を含めて、ただそれも生きた英語なんですね。表現力含めてチャレンジしてくれて、それに応えてくれていましたので、その教材になるのではないかと思います。

英語の授業の中で使えるのではないかとということで、そういうような学びにサミットをどう結び付けるかというのがこれからの大きな課題ですし、それを想定した取組内容の組み立てを今後、大町の教育長とも相談して、第二弾としては、もう4回やっていますので、そこを目指す。ということになると、まさに深い学び機会になってくる。単に交流にとどまらず交流を広げるというだけではなく交流から学ぶということ、それも教科の学び、カリキュラムマネジメント、それに結び付くのではないかと、そういう逆に言うと子どもたちから私が教わったことをございますので、そういったことをもとにしながら5回目以降、視点を変えて取り組んでいきたいなと思っていますところでございます。

○小町教育長 ほか、ございますか。松野委員。

○松野委員 せっかくのプレゼン、発表ですから、立川市内の中学生、より多くの子どもたちが参加する、市民も参加する、そうやって大町の子どもたちがどのように立川市を感じていったのか、これを知るのもまた広げていく一つの方法かなと思いながら聞いておりました。ますます充実する方向で、私はとても良かったと思います。

○小町教育長 ほか、ございますか。伊藤委員。

○伊藤委員 子どもたちも大変すばらしい体験をしたと思いますし、私も子どもたちの能力に改めて感心しました。そうやってこれからの子どもたちが育っていくことを本当に楽しみにしています。

お話を伺いながら、あれ、考えたらちょうど2年後は、立川にお見えになるといったときに、競輪場とかこの近辺がいろいろ、ちょうどオリンピックの前で同じことになれば、その辺はどうなる予定なのか、今から考えることも必要かなというような気がしているのですが、いかがでしょうか。

○小町教育長 ちょうどオリンピックの開催年になるということでございまして、立川市は競技会場ではないので、そういった意味ではキャンプ地ということでいろいろ動いている最中ではございますけれども、具体的にもしキャンプをやっている国があるとすれば、そういった国のつながりの中でもう一つプログラムを組めるかなと思いますし、何より東京でやるオリンピックですから、もう本当に準備万端整っていますので、そういったことを題材に加えるということは、とても大町の子どもたちにとっても深い学びにつながるのではないかなと思いますので、何らかのそういうオリンピックというキーワードを具体的に盛り込みながら、またプログラムを考えていきたいなと思っていますところで。タイミングがとてもいいなところですよ。

○小町教育長 ほか、ございますか。佐伯委員。

○佐伯委員 私も報告会を見させていただいて、本当に生徒たちは、素晴らしい発表をしていただきましたので、生徒たちも、これ以上はないよというぐらい、これ以上は望めないぐらい、本当に素晴らしいものでした。あとは大人たちが、立川市中の保護者、生徒、児童が、こういう企画があるんだということを本当に知っていただいて、目標にさせていただいて、小学校の時から、中学校になったらこれに出るんだというものを大人がしっかりと立川市中に知らしめていって、大きな目標にさせていただければと思いますので、是非、立川市を挙げて広報活動に邁進していただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

○小町教育長 ほか、ございますか。

〔「はい」との声あり〕

○小町教育長 子どもたちは大人の想像以上で、私が驚いたのは、パワーポイントですけどブラインドタッチなんですね。私がブラインドタッチできないからかもしれないですけど、本当に話すスピードと同時ぐらいでキータッチをして、なおかつ映像も、今はアニメーション機能がありますので、様々取り入れながら作っていました。

英語は、一人ひとりはまだ差がありますがそれでも、それを乗り越えるチーム力、一生懸命さがとても伝わってくるグループと流暢さが伝わるグループ、それぞれありますが、とにかくチャレンジすることはとても大事で、その結果はそれぞれ受け止めて、また学ぶモチベーションのきっかけにしてもらいたいかなと思います。ですからここで終わるのではなくて、ここから始まる、学びの起点になる、そんなサミットになってくれるというのを子どもたちから改めて学ばせていただいてところでございます。

では、ほかないようでございます。これで報告(2)平成30年度「立川市・大町市姉妹都市中学生サミット」について、の報告及び質疑を終了いたします。

◎報 告

(3) 特別支援学級在籍児童の登下校や療育等に関するアンケートの実施について

○小町教育長 続きまして報告(3)特別支援学級在籍児童の登下校や療育等に関するアンケートの実施について、を議題といたします。

矢ノ口教育支援課長、説明をお願いいたします。

○矢ノ口教育支援課長 それでは教育支援課より、特別支援学級に在籍している児童の登下校や療育等に関するアンケートを実施いたしましたので、ご報告させていただきます。

教育支援課では例年、小・中学校の特別支援学級の保護者会の皆さんと懇談の機会を設け、学校生活に関連した様々なご意見・ご要望をお聞きしています。その中でもとりわけ小学生の保護者の方からは、毎日の登下校に対する負担の軽減や就学後の療育及び専門家相談の継続を求めるご要望を多くいただけてまいりました。

昨年、平成29年度を初年度とする第2次特別支援教育実施計画におきましても、取組項目として就学後の療育ニーズや医療実態を把握することを掲げていることから、このたび29年度1年間の状況について何うべく保護者アンケートを実施したものです。

対象は、市立小学校の特別支援学級に在籍をしている児童の保護者 111 世帯で、昨年度末、本年 3 月に在籍学級を通じて別添 1 のようなアンケート用紙を配布及び回収させていただきました。有効回答数は 74 で、回答率は 66.7%でございました。回答の結果は別紙 1 にまとめておりますので、ご配付の資料をご覧ください。

なお、回答者の個人が特定されないことやプライバシーに配慮する観点から、回答の一部は掲載を割愛しております。番号の飛んでいる箇所がございますが、ご了承ください。

まず登校の状況についてでございますが、通学区域の小学校には特別支援学級がないため、他学区から通っている、と回答した家庭が半数を超えており、約 6 割の保護者が登校時に付き添っておられます。登校時の一番の心配事は通学路の安全面であり、地域での声かけや手助けが得られにくいとの回答が最も多くなりました。また、保護者の付き添いが困難な日に登校手段をどう確保するのかは保護者の方のご心配の一つであり、保護者以外の送迎サービスを利用した場合の経済的支援を望む回答も目立ちました。

下校時は、放課後等デイサービスの利用が最も多く、約 4 割の児童がデイサービスのお迎えスタッフと一緒に下校しています。放課後の過ごし方の心配事としては、子どもだけで下校や留守番をさせる際の安全面との回答が最も多く、障害のある子が安心して楽しく利用できる公共施設などの理解啓発を望むご意見が多く寄せられました。

次に、療育についてです。利用中の療育プログラムとして最も多いのは放課後等デイサービスですが、就学後も子ども未来センターなどの公共施設で療育プログラムがあると良い、とのご要望が多く、次いで、就学後も医療機関で引き続き必要な療育が受けられると良いとの回答も寄せられています。

自由意見に記述内容を含めた総括としては、特別支援学級が設置されている小学校がお住まいの通学区域から離れている場合も多いため、保護者にとって毎日の送迎は時間的・体力的・経済的なご負担が少なからず生じている実態がうかがえています。下校後は多くの児童がデイサービスや学童保育を利用していますが、子ども一人ひとりの障害の状況や課題に応じたプログラムが提供されるのか、学年が上がっても学童保育に引き続き入所できるのか、悩みやご心配を抱えている保護者は多くおいでです。

医療機関での療育はどこも数か月先まで予約が取れない状況が続いている実態が背景にあり、子ども未来センターの機能を拡充して、直営のプログラムや、専門家の相談が受けやすくなると良いとのご期待も多く寄せられています。福祉や子育て、教育等の公的支援の充実と合わせて、障害のある児童が安心して安全に地域で生活するために、周囲の大人の見守りや声かけ、公共の場で過ごしやすい配慮や理解が得られるよう、市全体で理解啓発をしてほしいとのご意見が多くあったことを踏まえまして、集計結果の速報値については、庁内の関係部署や市内小・中学校の特別支援学級設置校にも送付し、保護者からの要望などを共有したところです。

今後、教育支援課では、登下校に対する支援や療育プログラム実施など、公的なサービスを実施している自治体があるか、対象年齢や利用料、利用人数等の状況について情報収集に

努めてまいります。

報告は以上です。

○小町教育長 報告ありがとうございました。

これより質疑に移ります。報告内容を踏まえ、ご質疑をお願いいたします。

はい、田中委員。

○田中委員 今回、特別支援学級在籍児童の登下校や療育等に関するアンケートの実施、非常に詳細にわたって、しかも課題もしっかり整理されていて本当に感心いたしました。

3 番の回答結果、登下校については 8 項目ございますし、療育については 2 つほど要望等が出ているわけですが、自由意見を含めた総括 4 項目、あとはアンケート実施後の取り組みについて 3 点、やはりいろいろな課題が浮き彫りになったわけですが、この課題について、これからどのように取り組んでいくかということについて、方向性みたいなものを概要だけお聞かせいただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

○小町教育長 矢ノ口教育支援課長。

○矢ノ口教育支援課長 大きくは 2 つ方向性があるかと思っています。

まず 1 点目は、立川市でも、障害のある人もない人も共に暮らしやすいまちをつくる条例が制定されたことを踏まえまして、市全体での障害のある子どもが地域で歩いたり登校したり、公共施設で遊んだり利用したり、それに対する温かい理解であったり受け入れの環境であったり、その辺りの理解啓発を市全体でどう進めていくのかというところは教育支援課一課の課題だけではなく庁内の関係部署全体で考えていく課題かと思っております。

もう 1 つ、保護者の方から大変多くご期待いただいている療育などの具体的なサービスの展開でございますが、現在の子ども未来センターの機能の中では制約もあるところですが、今後、来年 31 年度には第 3 次の特別支援教育実施計画や第 2 次の発達支援計画、また、市の上位計画の策定も 31 年度に予定されています。32 年度以降の新たな取組の中で今回いただいた貴重なご意見を踏まえ、何か具体的な展開にもっていけるか考えていきたいと思っております。

○小町教育長 田中委員。

○田中委員 今おっしゃった中で、課題については、教育支援課だけではなくて全庁的な課題として取り組んでいかれること、それが大事なかなと思います。オール立川という視点でしっかり取り組んでいただくことをお願い申し上げます。あとは、31 年度が第 3 次特別支援教育実施計画、しっかり反映しながら、一つ一つ市民の方々の要望に応じていただくように期待申し上げます。よろしくお願いいたします。

○小町教育長 ほか、ございますか。松野委員。

○松野委員 この結果を見ると、課題が多いですね。私、特に放課後の子どもたちの過ごし方について気になる点がありますけれども、もっと学童だとかあるいは放課後子ども教室、地域と一緒に取り組んでいく中で、先ほどの市の方針でありますけれども、共に暮らしやすい、そういう実現のためにも是非、具体的な一歩を進めていただきたいなと思いながら、モデル

ケースでもいいと思いますけれども、その一步を踏み出していただきたいという気持ちでいっぱいであります。

もう1つは質問であります、子ども未来センター、ここもいろいろな相談、よく私も見たことがあります、今現状はいかがでしょうか。その状況について質問したいと思います。

○小町教育長 矢ノ口教育支援課長。

○矢ノ口教育支援課長 現在の子ども未来センターの相談状況でございますが、就学前につきましては、本市でご利用いただいている親子グループ、発達支援の活動などを行っています。就学後は相談機能に特化して就学相談や教育相談にお伺いしている現状があります。現在の施設の中の部屋数ですとか環境を考えますと、なかなか小、中学生を対象にした療育のプログラムの展開は現在の環境では難しさがあるというふうには感じているところでございます。

○小町教育長 松野委員。

○松野委員 そういった課題も今後検討していかなくてはいけないことですね。是非よろしく願いいたします。

○小町教育長 ほか、ございますか。

〔「ありません」との声あり〕

○小町教育長 ないようでございます。これで報告(3)特別支援学級在籍児童の登下校や療育等に関するアンケートの実施について、の報告及び質疑を終了いたします。

◎報 告

(4) 図書館利用者アンケートの結果及び読書アンケートの結果について

○小町教育長 続きまして、報告(4)図書館利用者アンケートの結果及び読書アンケートの結果について、を議題といたします。

池田図書館長、報告をお願いいたします。

○池田図書館長 それでは、図書館利用者アンケートの結果及び読書アンケートの結果について、ご説明申し上げます。

まず、図書館利用者アンケートの調査結果であります。

平成32年度に図書館サービスの指針となるべき、第3次図書館基本計画の策定を予定しておりまして、その参考とするために昨年10月から11月にかけて、各図書館に来館された方々にアンケート調査を実施いたしました。調査方式は、利用者自身が設問に回答するという方式をとりまして、全館合わせまして1,120部回収いたしました。

調査結果は、個々の設問を、1. 回答者の特性、2. 図書館の利用時間について、3. 図書館の資料・サービスについて、4. 読書習慣について、の4つの項目にとりまとめ、個々の設問と各項目ごとに総括に対してコメントしております。

次に、読書アンケート調査結果についてであります。

平成32年度から実施する第4次子ども読書活動推進計画の策定準備のため、読書アンケー

ト調査で平成 29 年 10 月から平成 30 年 1 月にかけて、市内小学校・中学校全児童・生徒を対象に、学級ごとに挙手による集計で実施いたしました。

設問は、本を読むのが、好き、どちらかという好き、どちらかという嫌い、嫌い。

実施日から 1 ヶ月間の読書冊数。

実施日から 1 ヶ月以内に学校図書館で本を読んだ、または借りたか。

実施日から 1 ヶ月以内に市立図書館で本を読んだ、または借りたか、の 4 項目を調査し、それを 5 つの項目に分けコメントしております。

中身についてでございます。3 ページをお開きください。

3 ページは、1 ヶ月間の平均読書冊数について説明しております。太線欄につきましては学校読書調査の数値も参考に記載しております。この調査は全国学校図書館協議会が実施する全国規模の調査で、毎年 6 月に小学校 4 年～6 年生、中学校 1 年～3 年生を対象に実施しており、立川市の児童生徒と比較できるようになっております。この結果、立川市の児童生徒が全国調査の半分程度の数字にとどまっていることが分かります。

次に 4 ページの 1 ヶ月間の読書冊数が 0 冊の割合をご覧ください。いわゆる不読者率の調査となります。過去と比較しまして立川市の中学生は大きく改善されておりますが、依然として小中学生とも全国調査の数字を下回っていることが分かります。図書館としましても、引き続き学校図書館と連携して改善に向けた対応を図ってまいりたいと考えております。

説明は以上になります。

○小町教育長 報告ありがとうございました。

これより質疑に移ります。報告内容を踏まえ、ご質疑をお願いいたします。

はい、田中委員。

○田中委員 私から、平成 29 年度立川市読書アンケート調査結果の中から、質問 1 点と提言を申し上げたいと思います。

まず 3 ページをご覧ください。読書冊数(1)1 ヶ月間の平均読書冊数、先ほど池田図書館長から説明がございましたけれども、平成 29 年度の 1 ヶ月間の平均読書冊数、小学校は国の場合ですと 11.1 冊、これに対して立川市の小学生が 5.8 冊、中学生は国が 4.5 冊に対して立川市の中学生が 2.7 冊、かなり読書の冊数に違いがあるわけですが、今後、小中学生共に読書冊数を増やすために、どのような手立てを検討しておられますかということで、指導課のほうからご回答いただければと思います。

○小町教育長 小瀬指導課長。

○小瀬指導課長 1 つは学校図書、教育課程の中で図書の時間があります。そこでどうやって興味関心を引き出すかというのがポイントになるのかなと思います。ややもすると、「はい、読書の時間です。好きな本をもってきていいよ」で終わってしまっている現状があります。何をテーマにして、自分なりに課題を設定して、その上で読む。そういう学校での読書の仕方をしっかりまずは習得させてから広げていきたいなと考えているところです。

もう 1 点は、パソコンとかインターネット等々で、実はちゃんとした調査書、小学生なり

に、中学生なりにちゃんとしたデータが出ている、そういう調査がございます。したがって、各教科、総合的な学習の時間を通して読書活動というものを意図的に行っていく。ただ楽しいだけではなくて、調べるためにとかそういうような目的意識をしっかりとまずは学校で培っていく、それが学校教育の読書に対する使命かなと考えてございます。

○小町教育長 田中委員。

○田中委員 小瀬指導課長から2点、具体的な今後の検討課題、そのようなお話がございましたが、是非そのことを校長会等通して、実態と今後の取組、小瀬指導課長からお話がありました点をしっかりと周知徹底しながら、なお一層読書冊数が向上するように取組をいただきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

提言でございます。ビブリオ・バトル、これが立川市内の中学校で2校が取り組んでいるかと思いますが、読書については「読むことは、心を耕すクワである」とありますので、今後、主体的・対話的な深い学びを進めるにあたって、全中学校でビブリオ・バトルの推進をしてはどうかと提言申し上げますが、これについてはいかがでしょうか。小瀬指導課長、お伺いしたいと思います。

○小町教育長 小瀬指導課長。

○小瀬指導課長 私も前任校で大会をやりまして、6年生、5年生が中心でしたが、やはりこれもあわせて呼びかけしていきたいなと思っています。

ただ、少し気になった結果ですけれども、挙手をさせて答えていくという形で、今後、調査の方法も一緒に学校図書館と手を携えて検討していきたいと思っています。

実は私も気になって、平成27年度、30年度比較しています。どういう比較かというところ、30分以上2時間より少ないというデータを見ていきますと、27年度から30年度、大きく立川は小学校6年生ですが17.1ポイント増加しているという結果も出ています。時間なのか冊数なのかというところもありますが、都の意識調査もございますし、全国学力学習状況調査の結果もございますので、あわせて分析をしてみたいなと思っていますのでございます。逆の結果が出る可能性があるというところもございます。

○小町教育長 田中委員。

○田中委員 今、小瀬指導課長からお話ございました。ぜひ分析をしていただいて、その結果を各学校に情報発信しながら、これからはとりわけ大事な主体的・対話的な深い学び、それにつなげていけるように取り組んでいただくことをお願い申し上げます。

次に、平成29年度立川市図書館利用者アンケートの結果及び読書アンケートの結果について、2点ほどお伺いしてよろしいでしょうか。

これについては池田図書館長からご回答いただければと思います。

まず1点目、9ページの「分析」をご覧ください。立川市教育委員会の教育目標の具現化のためにも、「利用頻度」にある「一方で普段図書館を利用する機会のない方への取り組みがこれからの課題」と記載されております、私も同じ考えです。今後、この見通しについてどう考えておられるのか、ご説明いただけたらありがたいと思います。

もう1点、同じ9ページの「開館時間」の中で「休館日数の削減と、開館・閉館時間の拡大へどう対応していくかが課題」と記載しております。これについても今後の見通しについてどのようにお考えいただいているのか、概要で結構ですがお伺いできればと思いますので、よろしくお願いいたします。

○小町教育長 池田図書館長。

○池田図書館長 まず1点目の、普段図書館を利用する機会のない方への取り組みということですが、図書館を利用する必要があるという人に対して、強制的に図書館を利用しなさい、というわけにまいませんけれども、図書館の取組としましては、いかに利用しやすい環境をつくっていくかということが課題だと思います。現在、図書館で進めております滞在型、要は貸出中心というよりも、いかに過ごしやすい環境で読書をしていただけるかというようなことを進めておりまして、どういった点で今まで図書館を利用していなかった方が利用していただけるかということについて、考えていきたいと思っております。

2点目です。休館日数の削減と、開館・閉館時間の拡大ということが課題となります。これにつきましては、主に中央図書館のことを言っております。指定管理者制度が導入されて、地区の指定管理者におきましては、休館日数を削減しまして利用者からは大変好評を得ております。それでしたら中央館もやればいいのかという意見もいただいております。まず休館日数の削減につきましては、中央館の場合は基本的に月曜日と第3木曜日がお休みになっております。月曜日は、職員につきましては土日勤務しておりますので、その振替の日ということと、あとは土日に出勤していない人につきましては本の選定ということとで地区館の図書館と合わせまして選定会議をしております。そういった本の選定のあり方とか事務のあり方等見直した上で、休館日数を削減できるかということを考えていきたいと思っております。

それと開館・閉館時間の拡大ということでございます。これも職員の勤務体制に大きく関わることでして、当然、時間が拡大すれば人の手当てをしなければなりませんので、正職がなかなか、いろいろな職員の関係で増えない中で、嘱託とか臨時職員とか民間活用とかいろいろありますけれども、どのようなことをすればこういった利用者の希望に沿えるかということも考えていきたいと思っております。

また、利用時間を例えば夜間、拡大したところで、今は働き方改革ということで従前よりも会社を早く切り上げまして、余暇活動とか家族サービスとか、いろいろな方向で社会情勢が変化しております。そうしたことで図書館の夜間延長をした上で、どのような社会的ニーズに答えていけるかということも分析しながら改善を図ってまいりたいと思っております。

○小町教育長 田中委員。

○田中委員 1点目については、今説明がございましたように、利用しやすい環境整備、いろいろ大変な業務があるかと思いますが、ぜひ利用しやすい環境整備に今まで以上にお努めいただければありがたいと思います。

2点目の開館時間等の課題ですが、指定管理者制度で取り入れているものが、即、

中央図書館で取り入れるということについては様々な課題もあろうかと思いますが、また勤務体制の問題もありますので、そういう中で社会が日々変化しておりますので、是非この開館時間を含めた拡大について、さらに調査研究しながら進めていただければと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○小町教育長 ほか、ございますか。松野委員。

○松野委員 アンケート、ありがとうございます。私、このアンケートを見ながら、特に立川市読書アンケート調査結果、子どもたちに向けた調査ですね。口頭でこれだけの質問をしたんですね。その結果を見ていきますと、なかなか分析ができないアンケートになっているのではないかなと思います。例えば5ページの、1ヶ月間で学校図書館を利用した割合、中学3年生が顕著に伸びている。しかしなぜ伸びたかというのは、根拠って類推ですね。かなりきちとした根拠があって伸びているわけではないですね。

私は、本が好きというのは、自然に好きになった、あるいは読書しているのではなくて、もっと読書の指導の成果であるとか、あるいは教育環境であるとか、こういったものが大きな作用をして子どもたちにいろいろな変化をもたらしているのではないかと考えております。

そういう点では、例えば子どもたちに、本が好きになったきっかけはとか、読もうとしたきっかけ、要因を探るような調査であるとか、それから学校に対しても、たぶん読書量を増やす取組をしていると思うんですね。読書週間、読書月間、どのぐらい、どんな工夫をして、どんな成果があったのか、こういったことも問うような調査がないと、これではなかなか次のもっと読書量を増やしていきましょうという力にはなり得ないのではないかと。

そういう意味では、このアンケートそのものを再検討といいますか、次に役立つ、次に活かせるようなアンケートをしていかないとダメではないかなと私は思った次第ですが、いかがでしょうか。

○小町教育長 池田図書館長。

○池田図書館長 先ほど指導課長からも発言がありましてとおり、この調査自体は学級ごとに挙手による集計ということです。どうして挙手による集計なのかといいますと、これはあまり学校の先生の負担をかけないように、なるべく簡潔な設問で実施しているということが過去と続いていまして、この29年度の取り組みもそういたしました。

ただ、挙手となりますと、ほかの生徒が手を挙げていて自分が手を挙げないと、とか、ほかの生徒が手を挙げていないのに自分が手を挙げるとか、他人の目を気にしてしまう傾向というのがあって、本当にこのアンケート調査が正確なものが出るかどうかという部分もありますので、次回、調査するときには指導課と上手に調整しまして、なおかつ学校の先生にあまり負担をかけないような方法等、今、松野委員がおっしゃったとおり、要因の調査、どうしてこういう結果が出たのかというようなことも分析がやはり大切だと思いますので、次回調査のときには改善したものを取り入れたいと思います。

○小町教育長 松野委員。

○松野委員 是非、お願いします。

○小町教育長 ほか、ございますか。伊藤委員。

○伊藤委員 図書館のほうで少しお伺いしたいのですが、例えば 13 ページの職員についての「知識の豊富さ」というところと、次の 14 ページで「分析」のところ、「スキルアップが望まれます」と書いてありまして、アンケートの内容のところ、図書館の職員についてどのように思いますかということで、職員の知識の豊富さ、「1 満足」、「2 やや満足」というような形の聞き方だと思います。

そうしますと、中央図書館のほうがある目的をもってお見えになる方が多いという傾向が分かりますが、実際に中央図書館の職員のどういうところのスキルを求められているのかがこのアンケートだけではなかなか分からない。例えば欄外に、どんなことが不満足でしたかとか、そういう項目があると、少しはこういうことを注意すればいいのかと、その辺の職員についての知識の豊富さも不満足であると言われたときに、どうしたらいいのかと考えてしまいました。その辺はいかがでしょうか。

○小町教育長 池田図書館長。

○池田図書館長 各設間にも通じることだと思います。満足、不満足、じゃあ何が満足で何が不満足かということについて、この調査結果ですと単純に設間に対して丸をつけているだけなので、その理由というか、どうしてそういう答えをしたのかということにつきましては、ここには載せておりませんが、自由記述欄の中で、もしそういうような意見がありましたら取り入れて、このアンケート調査の中に、分かりやすい、どうしてこうなったのかということも踏まえて調査結果を示していきたいと思います。

○小町教育長 ほか、ございますか。

この調査自体、分析も含めまして精査して精度を上げていくことはとても大事なことと思います。全員にアンケートをとらなくても傾向を取り入れていくことはできますので、それ以外に目的があって全員ということで過去やってきた経緯もあるのかなと思うのですけれども、そういったことを踏まえまして、都の調査、国の意識調査もございますので、そういったところを参考にしながら、次回行うときは学校教育と図書館、しっかりと連携しながら調査自体を行いたいというのが 1 点。

傾向としては、本に対する取組が弱くなってきているのは事実でございます。スマホの調査をやりますと、やはりスマホに使っている時間が伸びておりますので、総体的に読書に向かう時間が減っているということは如実に、24 時間の時間の中で子どもの生活時間を見ていけば自ずとも方向性は出ているのかなと思います。多少の出っこみ引っこみはあるでしょうけれども、傾向はそっちに必ずいつていますので、調査自体の精度を上げてより要因分析を綿密にするということと並行して、実際、学校教育と図書館、生涯学習部門が連携してこの課題に、もう、すぐにアクションをしていかないといけないかなと思っています。

他市の図書館とも連携しながら、子どもの読書をまず上げていく。それを起点にしながら大人のほうも利用を図ると。そんな取り組みを今後また検討して、教育委員会の協議ということで図らせていただいて、取り組んでいけたらいいかなと私も考えているところでござい

ます。一つの子どもの読む力ということも含めまして、大きな課題というふうに私も捉えて
いるところでございます。

○小町教育長 ほか、ございますか。よろしいですか。

〔「ありません」との声あり〕

○小町教育長 ないようでございます。これで報告(4)図書館利用者アンケートの結果及び読書
アンケートの結果について、の報告及び質疑を終了いたします。

○小町教育長 次に、その他に入ります。

その他、ございますか。

〔「ありません」との声あり〕

◎閉会の辞

○小町教育長 次回の日程を確認いたします。次回、平成30年第18回立川市教育委員会定例
会は平成30年9月27日、午後1時30分から302会議室で開催いたします。

これをもちまして、平成30年第17回立川市教育委員会定例会を終了いたします。

午後2時45分

署名委員

.....

教 育 長